

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットなどにかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	❯は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、❯の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「必ず実行すること・強制」を示します。)

警告

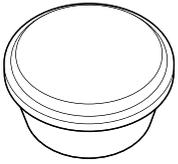
 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたまま使用したり、重いものをのせたり、はさみ込んだりしない。 火災・感電の原因になります。	指示 電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。	プラグを抜く	使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による火災・感電・漏電の原因になります。
乳幼児だけで使わせたり、手の届くところでは使わない。 感電・けがの原因になります。	分解禁止	製品の組み立てや取りはずし、お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 火災・感電・けがの原因になることがあります。
本体のすき間にピンや針金などの金属物、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	ぬれ手禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店にご相談ください。
湿度の高いところ、火気があるところ、直射日光があたるところで使用・保存はしない。 故障や変形の原因になります。	ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	水ぬれ禁止	本体を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 感電・ショートの原因になります。

⚠️ 注意

 接触禁止	刃やスパイクには直接ふれない。 けがの原因となります。	専用の製氷カップでつくった氷や市販の製氷皿でつくった パラ氷、冷凍フルーツ以外のものを氷ケースに入れない。 破損、故障の原因になります。
 指示	水分や振動に強い、水平で安定したテーブルなどの上で使用 する。 モーター故障の原因になります。	製氷カップを加熱したり、電子レンジに入れたりしない。 破損の原因になります。
	使用しないときは、十分に乾燥させ、刃の部分に軽く食用 油を塗って、湿度の少ないところへ保存する。 サビの発生や、カビが繁殖する原因になります。	製氷カップや本体以外の水洗いできる部分は、40℃以上のお湯で洗わない。食器洗浄機、食器乾燥機を使用しない。 変形、変色、破損の原因になります。
	準備するとき、使用するとき、指などはさまないように注 意する。 けがの原因になります。	高いところから落とすなど、強い衝撃を与えない。 感電、けが、破損、故障の原因になります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、電源プラ グを持って引き抜く。 感電、ショート、故障の原因になります。	タコ足配線をしない。 火災の原因になります。
 禁止	2分以上の連続運転はしない。 モーター故障の原因になります。	 禁止 お手入れのときは住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アル コール・磨き粉・金属たわしなどを使わない。 変色・変形の原因になります。
	運転中にスタンドから本体・氷ケースを取りはずしたりし ない。 けがや故障の原因になります。	調節ダイヤルを回すときにカチカチ音がしたらそれ以上 は回さない。 故障の原因になります。
	変形や破損のあるときは、使用しない。 火災・感電、やけどの原因になります。	冷凍庫から出した氷を素手でふれない。 氷に皮膚が貼りついて、皮膚がはがれるなど、けがの原因 になります。
	本体を水につけたり、水洗いしない。 本体は防水されていないため、水が入るとショートや火災、 感電の原因になります。	市販のかたい氷は使用しない。 破損や故障の原因になります。
	業務用に使用しない。調理目的以外の使いかたはしない。 家庭用として設計されているため、業務用としては使用しな い。	電源入にしたまま電源プラグを抜かない。 けがや故障の原因になります。
	不安定な場所や傾いた場所、高い場所、乳幼児やペットの 走り回る場所には置かない。 落下して故障や破損の原因になります。	
	氷を入れた状態で本体を倒したり、さかさまに持ったり、置 いたりしない。 本体に水が入り、感電、故障の原因になります。	

各部の名称とはたらき

付属品



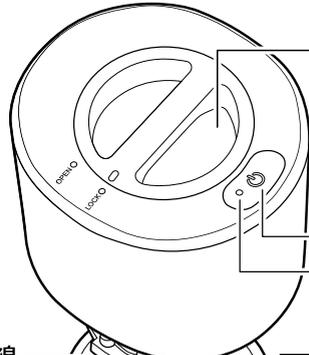
ふた付き製氷
カップ
Mサイズ(2個)



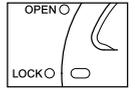
ブラシ



注意 取りはずしつまみを持って、持ち運びしない。
スタンドがはずれて破損の原因となります。



取りはずしつまみ
スタンドから本体を
取りはずすときに回
転させます



本体

電源ボタン
電源ランプ

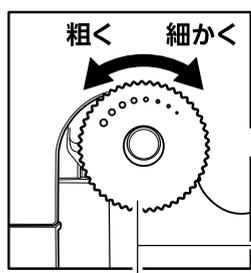
氷線
(入れるバラ氷などの上限)

スパイクベース
インナーリング
(取りはずすことができます)

刃

前面

氷ケース



調節ダイヤル

調節ダイヤル軸
収納用ストッパー

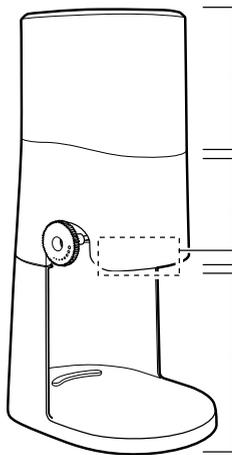
スタンド

トレー



注意 調節ダイヤル軸に負荷がかかる
ような使いかたはしない。
破損、故障の原因になります。

前面



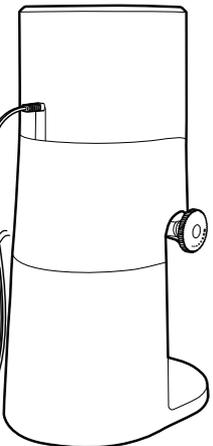
本体

氷ケース

ギア部
(内側)

スタンド

裏面



電源コード

電源プラグ

初めて使用する前に

1. 製品をお手入れする

「お手入れと保存」(11～13ページ)を参考に一度すべて分解して水洗いして十分に乾かします。



警告

本体は絶対に水につけない。
故障の原因になります。

《氷をつくるときは》

1. 付属のふた付き製氷カップを十分に洗う

初めて製氷カップを使用するときは、十分に洗ってください。



注意

製氷カップを洗うときは、食器洗浄機、食器乾燥機を使用しない。
変形などの原因になります。

2. 水を製氷カップの約8分目まで入れ、ふたをして冷凍庫に入れる

製氷カップに約8分目程度水を入れ、ふたをして冷凍庫に入れてください。

- 氷の厚みが増すことで、本体を取り付ける際にスパイクベース部分のバネの抵抗が強くなり、取り付けにくくなります。
- 製氷カップは安定するように平置きで冷凍庫に入れてください。
- 斜めに凍らせた氷を本体に取り付けると、スパイクベースに負荷が掛かって破損する場合があります。
- 積み上げて製氷すると倒れる可能性があります。



注意

製氷カップに水を入れすぎない。
製氷カップ破損の原因になります。

《プリン氷をつくるときは》



注意

プリンは卵、牛乳、砂糖を使用した洋菓子のことを指します。
市販のプリンの中には、ゼラチン、寒天、増粘多糖類を使用している製品があり、それらの量によっては、スパイクが空回りし、削れない場合があります。
アラモード、スポンジケーキなどプリンの中に、かたい固形物や、粘り気の強いものが使用されていないことを確認の上、凍らせてください。

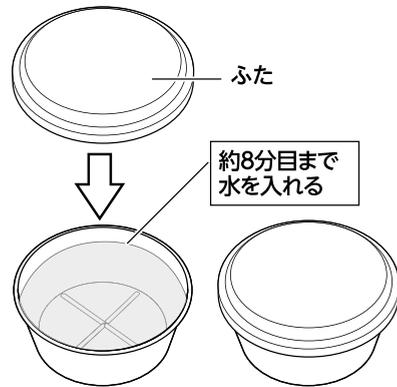
1. プリンを製氷カップの約8分目まで入れ、ふたをして冷凍庫に入れる

スプーンですくったプリンを製氷カップに約8分目程度まで入れて、スプーンの皿裏で表面を平らにしてふたをして冷凍庫に入れてください。表面が斜めになったりするときれいに削れません。



注意

製氷カップにプリンを入れすぎない。
製氷カップ破損の原因になります。



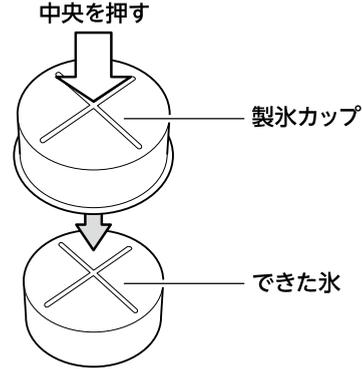
※ 水・プリン以外のものを氷にするときは、付属のレシピをご参照ください。

準備 (つづき)

2. 水・プリンが凍ったことを確認したら、ふたをはずして氷を取り出す

使用するときには、ふたをはずして製氷カップの底面を押して、氷を取り出します。

• 氷が取り出しにくいときは、カップの外側を温め、少し溶かすと取り出しやすくなります。



⚠️ 注意

- 冷凍庫から取り出したばかりの氷に直接ふれない。皮膚が氷に密着し、けがの原因になります。
- 氷を製氷カップから取り出すときに、たたきつけたりしない。製氷カップの破損の原因になります。
- できた氷はできるだけ早く使用する。氷をストックしておくことができますが、時間が経過すると霜が付き、かき氷に適した氷ではなくなります。

正しい使いかた

調理準備

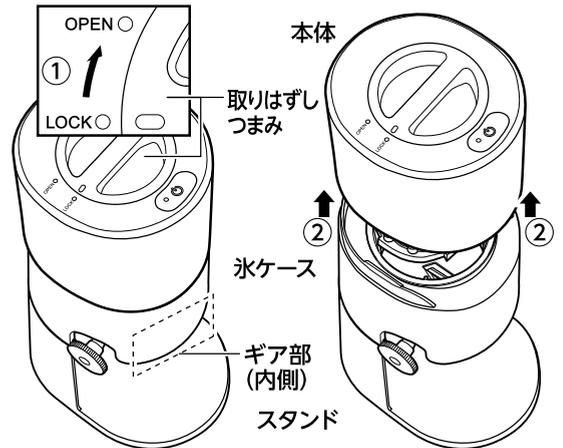
⚠️ 注意

- テーブルや机以外の場所で使用しない。
- 乳幼児だけで使わせたり、手の届くところで使用しない。

1. 水平で安定した場所に設置し、氷ケースから本体をはずす

最上部の取りはずしつまみを回して①、氷ケース・スタンドをしっかりと押さえて、氷ケースから本体を取りはずしてください②。

氷ケースがスタンドにしっかりとのっていることを確認してください。

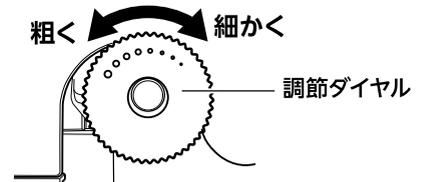


2. 刃の高さ調節ダイヤルを回して最も細かい設定にする

右図のように、氷ケース左にある刃の高さ調節ダイヤルを時計回りに回して、前もって最も細かい設定にしておきます。

調節ダイヤルは無段階調節になっています(細かく、粗くの2段階切り替えではありません)。細かくの方めいっぱい(かたさを感じるころ)から、粗くの方めいっぱい(かたさを感じるころ)まで、調節範囲があります。

氷の削れ具合を見て調節しながら削ってください。



⚠️ 注意

- 刃やスパイクベースにはふれない。鋭利なため、けがの原因になります。
- ギア部にはふれない。指をはさむなど、けがの原因になります。

材料投入

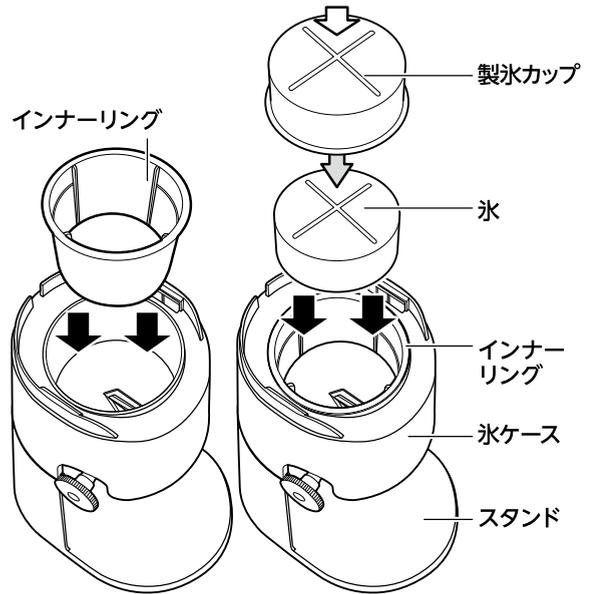
それぞれ削る材料によって以下のように材料を氷ケースのインナーリング内に入れてください。

製氷カップの氷

3. 氷ケース内側にインナーリングを取り付け、製氷カップでつくった氷の平らな面を下にして氷ケースに入れる

氷ケースに必ずインナーリングを取り付け、付属の製氷カップでつくった氷を氷ケースに入れてください。

氷ケース内で、できるだけ表面を平らにします。



注意

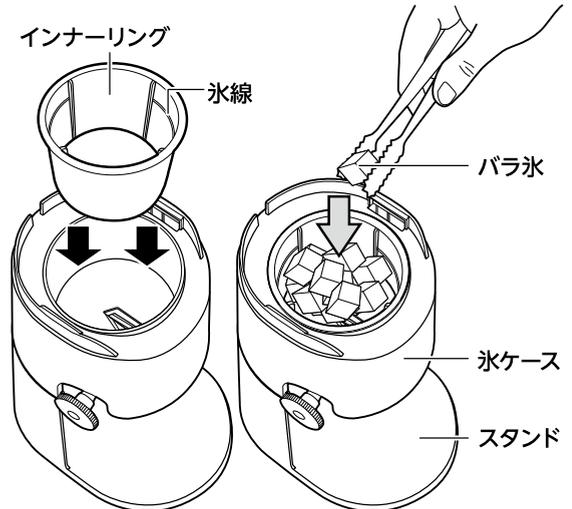
- 専用の製氷カップでつくった氷以外は使用しない。
- 製氷カップに水を入れすぎない。製氷カップ破損の原因になります。
- 氷を製氷カップから取り出すときはたたきつけたりしない。破損の原因となります。
- インナーリングを必ず取り付けて使用する。インナーリングを使用しないと正しく削れませんので必ず使用してください。

バラ氷

3. 氷ケース内側にインナーリングを取り付け、製氷皿でつくったバラ氷をインナーリング内側の氷線以下で氷ケースに入れる

氷ケースに必ずインナーリングを取り付け、バラ氷（市販の製氷皿でつくった氷もしくは自動製氷機能付冷蔵庫でつくった氷）をインナーリングの氷線を超えないように入れてください。

氷ケース内で、できるだけ表面を平らにします。



注意

- 市販されているかたい氷、大きな氷は使用しない。破損の原因になります。
- インナーリングの氷線を超えて氷を入れない。本体を取り付けることができなくなります。
- インナーリングを必ず取り付けて使用する。インナーリングを使用しないと正しく削れませんので必ず使用してください。

正しい使いかた(つづき)

冷凍フルーツ

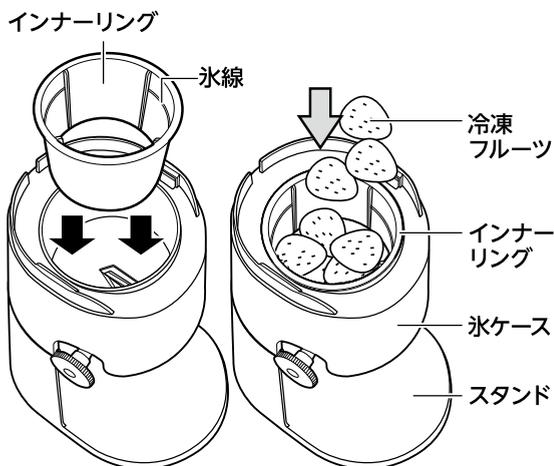
3. 氷ケース内側にインナーリングを取り付け、市販されている冷凍フルーツを氷ケースに入れる

氷ケースに必ずインナーリングを取り付け、氷ケース底面が見えにくくなるまで冷凍フルーツをまんべんなく入れてください。

氷ケース内で、できるだけ表面を平らにします。

⚠️注意

- 冷凍フルーツは市販されている一口大サイズを削る。
- みかんがまるごと冷凍されているものは使用しない。
- 厚い皮がついたままのフルーツは使用しない。
- 冷凍フルーツは少ない量で使用しない。スパイクが空回りして削れない場合があります。
- インナーリングを必ず取り付けて使用する。インナーリングを使用しないと正しく削れませんので必ず使用してください。
- インナーリングの氷線を越えて冷凍フルーツを入れない。本体を取り付けることができなくなります。



プリン氷

(プリン氷の作りかたは、5ページ参照)

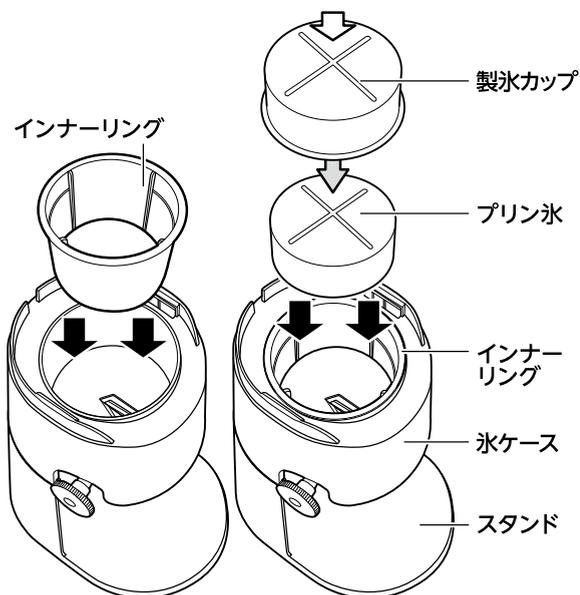
3. 氷ケース内側にインナーリングを取り付け、製氷カップでつくったプリン氷の平らな面を下にして氷ケースに入れる

氷ケースに必ずインナーリングを取り付け、付属の製氷カップでつくったプリン氷を氷ケースに入れてください。

氷ケース内で、できるだけ表面を平らにします。

⚠️注意

- 専用の製氷カップでつくった氷以外は使用しない。
- 製氷カップにプリンを入れすぎない。製氷カップ破損の原因になります。
- 氷を製氷カップから取り出すときはたたきつけない。破損のおそれがあります。
- インナーリングを必ず取り付けて使用する。インナーリングを使用しないと正しく削れませんので必ず使用してください。



調理をする

4. スパイクベースで氷などの材料を押さえつけるように本体を氷ケースに取り付ける

氷ケース内で、できるだけ氷などの材料の表面を平らにしたうえで本体を取り付けるようにします。

※ 水以外の氷を入れたときは、氷が比較的柔らかくスパイクベースのところで空回りすることもあるため、本体を取り付けるとき、スパイクベースを氷、プリン氷または冷凍フルーツに食い込ませる感覚で取り付けてください。

取り付けづらいときは、本体を氷ケースに押し込んで、本体と氷ケースがしっかり取り付けられていることを確認ください。

※ スパイクベースは回転軸に確実に固定されていることを確認してください。

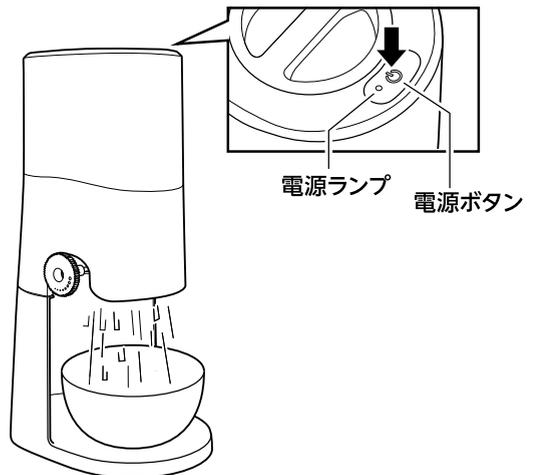
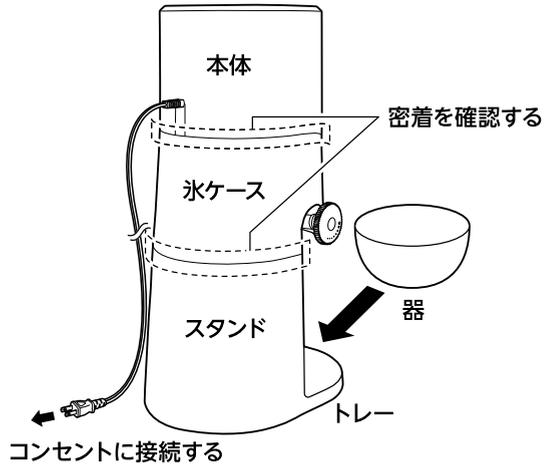
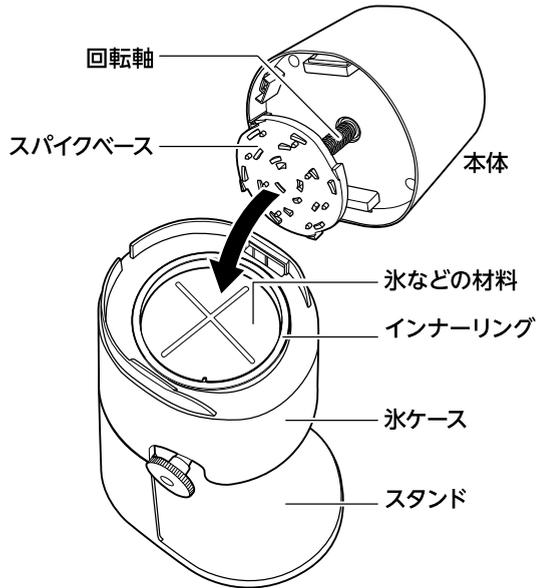
5. 本体と氷ケース、スタンドがぴったり接合されていることを確認し、スタンドのトレー部分に器を用意する

本体と氷ケースが密着しない場合、氷ケース内に入れたものの量を調節してください。

6. 電源プラグをコンセントに接続する

7. 電源ボタンを押して電源を入/切して、調理をする

- 電源ボタンを押すと、電源が入り、電源ランプが点灯し、スパイクベースが回転して運転を開始します。
- 再度電源ボタンを押すと、電源が切れ、電源ランプが消灯し、スパイクベースの回転を止めて運転が停止します。
- 運転中、氷ケースに入れたものによっては、本体が大きく動く場合がありますので、そのときは運転中は上から押さえつけるようにしてください。



⚠️ 注意

- 2分以上の連続運転はしない。モーター故障の原因になります。
- 水平で安定したテーブルなどの上で使用する。

本体を氷ケースに正しく取り付けしていない状態では作動しません。

- 氷がなくなっても、自動で止まりませんので、すみやかに電源ボタンをもう一度押して、停止させてください。
- 器にかたよって調理されたときは、器を回転させてください。

正しい使いかた(つづき)

ふわふわとろとろに削る方法

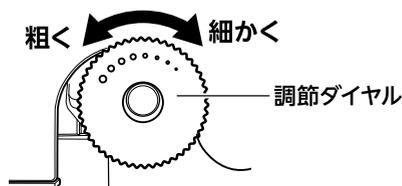
できあがりの細かさ・粗さを調節できます。

- ①刃の高さ調節ダイヤルを【細かく】の方へ止まるどころ(かたさを感じるころ)まで回します。
(刃が一番低い状態になり、氷は削れない場合があります。)カチカチ音は【細かく】の最後まで回した状態です。
- ②電源ボタンを押して電源を入れ、氷を回転させます。
- ③氷を削りながら調節ダイヤルをゆっくりと反時計回り【粗く】に回してください。
氷が削れ始めたあたりは削れる量が少なく不安定なため、もう少し粗く削ります。
- ④刃が少しずつ高く上がっていき、氷の下側に刃が届き始めたあたりで削れ始めます。
調節ダイヤルを回しすぎるとカチカチと音がしますが故障ではありません。
カチカチ音がしたらそれ以上は回さないでください。
- ⑤削っていると氷の厚みが薄くなったり、振動や刃が氷に押されるなどすることで、空回りしたり削れ方が変わりますので、氷の粗さを見ながら都度微調節を行ってください。



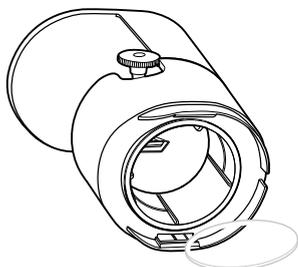
・カチカチ音がした状態で回し続けると調節ダイヤルの破損や故障の原因になります。
・カチカチ音は【細かく】【粗く】の最後まで回した状態です。

- ※一定の位置では削れない場合があります。
- ※氷の状態により削り具合は変化しますので、必要に応じて氷を削りながらこまめに調節を行なってください。
- ※アルコールを含んだ氷を削らないでください。
- ※周囲に削れた氷が飛び散るので、口径の小さい器に氷を削るときは、ぬれてもよい場所か、器の下にふきんなどを敷いて削ってください。
- ※調節ダイヤルを強く回しすぎると、回らなくなることがあります。



8. 削れなくなったら、電源を切った状態で本体を氷ケースからはずし、氷ケースに残った氷、プリン氷または冷凍フルーツを取り除く

スパイクベースと刃があたらないような構造になっているため、氷ケース内に氷、プリン氷または冷凍フルーツが残りますが故障ではありません。



続けて氷を削るときは、氷ケース内に残っている氷、プリン氷または冷凍フルーツは、必ず取り除いてください。残ったまま新しい氷、プリン氷または冷凍フルーツを入れると空回りして削れません。
※使用後は、本体に付着した水が垂れることがあります。ふきんなどの上において水切りをしてください。

調理が終わったら

9. 調理を終えたら、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お手入れをする

氷を削り終えたら、本体以外を洗って、十分乾燥させます(「お手入れと保存」11~13ページ)。



- ・氷ケースに残った氷、プリン氷または冷凍フルーツは取り除く。
- ・使用後は十分お手入れをして乾燥させる。水以外のものを凍らせて削ったときは、そのままにしておく、すぐにサビやカビなどの発生原因になります。



氷ケースに残った氷、プリン氷または冷凍フルーツは取り除く。
残ったまま新しい氷、プリン氷または冷凍フルーツを入れると空回りして削れません。

お手入れと保存



お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

感電やけが、やけど、故障の原因になります。

お手入れのときは住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉・金属たわしなどを使わない。
変形、変色の原因になります。

水以外のものでも氷をつくったときは、早めに念入りにお手入れをしてください。

本体をお手入れする

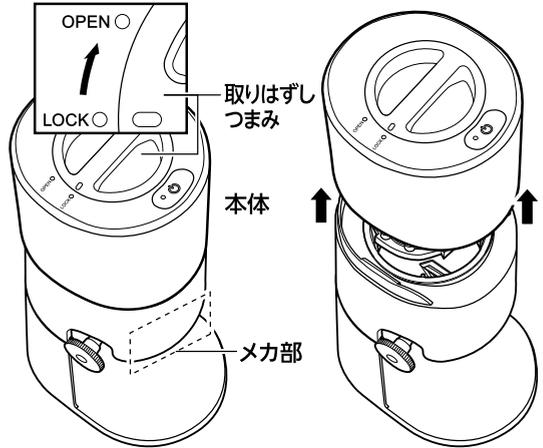


本体は絶対に水につけない。
故障ややけどの原因になります。

本体以外は、すべて水洗いすることができます。

1. 最上部の取りはずしつまみを回し、氷ケース・スタンドをしっかりと押さえて、本体を取りはずす

OPEN側に回して取りはずします。



2. 本体からスパイクベースをはずす

平らな場所に、本体の取りはずしつまみ側を下に置き、本体を押さえます①。

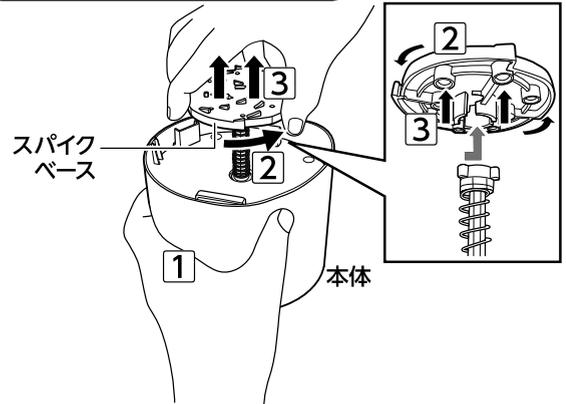
スパイクベース裏側を見て十分気をつけ、スパイクベースを（上から見て）左方向（反時計回り）に回し②、取りはずしてください③。

3. 本体を乾いたふきんで拭く

スパイクベースの上の部分など、水気が残らないように拭き取ってください。

汚れがひどいときは洗剤を含ませたふきんをしっかりしぼってから使用して、汚れが取れたら、乾いたふきんでから拭きしてください。

スパイクベースの取りはずし

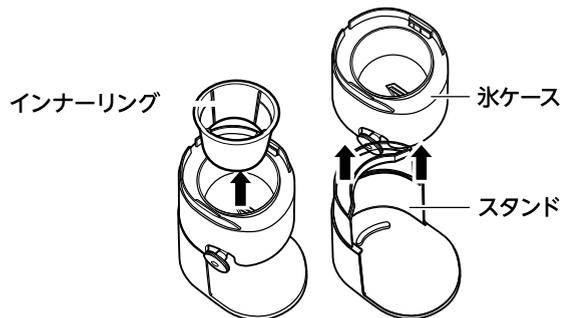


本体以外をお手入れする

本体以外は、すべて水洗いすることができます。

4. 氷ケースからインナーリングをはずし、スタンドから氷ケースを取りはずす

氷ケースを取りはずすときは、スタンドを押さえて氷ケースを持ち上げるようにして、氷ケースを取りはずします。

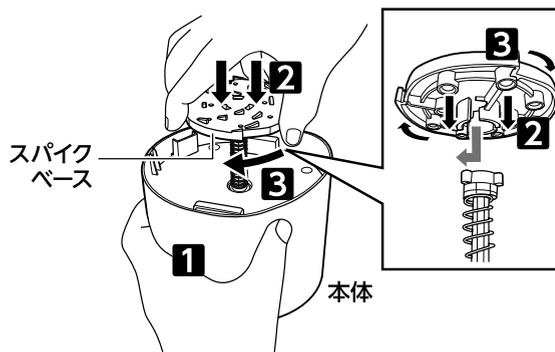


お手入れと保存(つづき)

5. 取りはずしたスパイクベース、スタンド、氷ケース、インナーリング、製氷カップ、すべて水洗いをする

本体以外すべて水洗いをしてください。
汚れがひどいときは、ぬるま湯でうすめた食器用洗剤を使用して必ずきれいに洗ってください。

スパイクベースの取り付け



⚠️ 注意

- 刃やスパイク部にはふれない。
鋭利なため、けがをすることがあります。
- 氷ケースの刃の部分は分解しない。
- ギア部にはふれない。
指をはさむなど、けがの原因になります。

6. 水洗いしたあと、十分に乾燥させて、元通り組み立てて保存する

刃の部分については、「刃の部分のお手入れ」をご覧ください。

刃の部分のお手入れ

1. 刃には直接手をふれないように付属のブラシを使ってお手入れをする

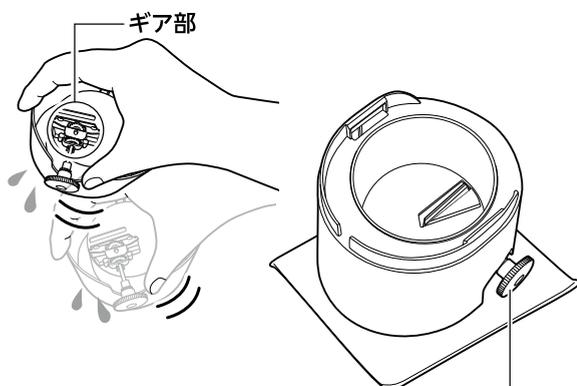
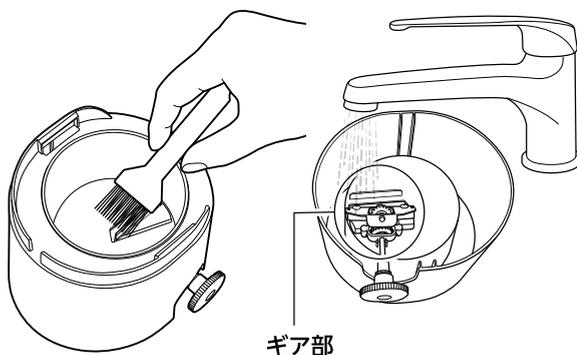
- 氷ケースのギア部を上側にして水洗いします。
- ギア部を上側にして氷ケースを振って水気を飛ばし、綿棒を使用して水気が残らないように拭き取ります。
- 調節ダイヤルを下側にしてふきんなどの上に置いて完全に乾かしてください。

2. 乾かしたあと、刃に綿棒などで食用油を塗って保存する

- サビ防止のため、刃に食用油を塗っておきます。
※ 十分にお手入れをして乾燥させないと、サビやカビが発生します。

⚠️ 注意

- 刃やスパイク部にはふれない。
鋭利なため、けがをすることがあります。



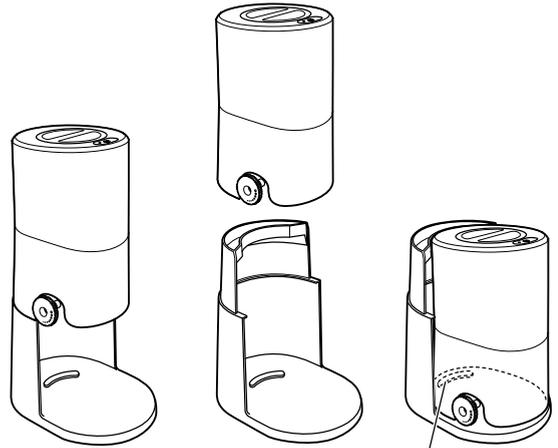
長期保存のしかた

お手入れをして、十分乾燥させてから、ホコリが付かないようにポリ袋へ入れて湿気のないところへ保存してください。

スタンドから本体+氷ケース部分はずし、スタンドの収納用ストッパーに引っ掛けるようにトレイ部にのせることでコンパクトに収納してください。

※ 電源コードはたばねてください。

※ 十分にお手入れをして乾燥させないと、サビやカビが発生します。



収納ストッパー

修理・サービスを依頼する前に



警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
電源を入にしても 運転しない	電源プラグが抜けていませんか。	電源プラグをしっかりと差し込んでください。
	本体とスタンドが正しく取り付けられていますか。	正しく取り付けてください。
氷が削れない	氷が氷ケースに入っていますか。	氷を氷ケースに入れてください。
	氷ケース内に削れずに残った氷などが入っていませんか。	電源を切り、氷などを取り除いてください。
	スパイクベースが空回りしていませんか。	電源を切り、一度本体を氷ケースからはずして、再度本体を取り付け直してください。
	インナーリングが氷ケースに取り付けられていますか。	電源を切り、インナーリングを氷ケースに取り付けてください。
	糖分が多く、柔らかい氷のためスパイクベースが空回りしていませんか。	糖分を減らした氷に変更してください。
	刃が出すぎた状態(粗い削り)になっていて回らない状態(氷がロックしている)になっていませんか。	刃の高さを調節ダイヤルで一番細かい設定にして、少しずつ粗い削り方向へ調節してください。
冷凍フルーツが削 れない	刃が出ている状態(刃が氷に届かずから回り)になっていませんか。	刃の高さを調節ダイヤルで、少しずつ粗い削り方向へ調節してください。
	冷凍フルーツの量が少なくなっていますか。	氷ケースの底面を埋めるように入れる量を増やしてください。
	冷凍フルーツのサイズが大きすぎませんか。	冷凍フルーツは市販で売られている一口大サイズのものを使用してください。
ふわふわに削れない	スパイクベースが空回りしていませんか。	電源を切り、一度本体を氷ケースからはずして、再度本体を取り付け直してください。
	刃の高さ調節をしていますか。	電源を入にして、調節ダイヤルでこまめに刃の高さ調節してください。
氷を削るスピード が遅い	氷が少なくなったり、氷が斜めになっていませんか。	電源を切り、氷を裏返しにしてください。
	氷がかたい状態になっていませんか。	氷を常温で放置し、少し溶かしてから削ってください。
途中で止まってし まう	氷がロックしていませんか。	調節ダイヤルを「細かく」の方向へ回して、刃をこまめに調節してください。
	2分以上使用していませんか。	電源プラグを抜いて、30分以上削るのをやめてください。
本体を氷ケースに 取り付けることが できない	製氷カップでつくった氷や冷凍フルーツ以外を使っていませんか。	製氷カップでつくった氷か、冷凍フルーツを使ってください。
	氷ケース内に削れた氷が入っていませんか。	氷を入れ替えてください。
	氷線を超えて入っていませんか。	氷線以下にしてお使いください。

症状	主な原因	処置
氷または冷凍フルーツが空回りしてしまう	氷ケースの刃のすき間・溝部分に削った氷が詰まっていますか。	電源を切り、氷ケースを取り出して確認する。詰まっていたら、ブラシを使って水道水で洗い流してください。
	調節ダイヤルを細かくの方向へ回しすぎていませんか。	氷が削れる高さまで粗くの方向へ回し、氷を回転させながら、こまめに刃の高さを調節してください。
削った氷が奥側に落ちてしまう	氷の種類、削りかたにより奥側に削れる場合があります。	器の場所を調節してください。

長年ご使用の製品はよく点検を

このような症状はありませんか？

- 電源プラグ、電源コードが異常に熱い。
- こげ臭いにおいがする。
- その他の異常・故障がある。



このような症状のときは、事故防止のため、すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、必ず販売店またはお客様相談室に点検をご相談ください。

アフターサービスについて

●製品の保証について

1. この製品には保証書がついています。
保証書は販売店にて所定事項を記入してお渡しいたしますので、内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。
2. 保証期間はご購入の日から1年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。
3. 保証期間後の修理は販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理いたします。

●修理を依頼されるときは



警告

- 故障のときは、ただちに使用をやめてコンセントから電源プラグを抜き、ご購入の販売店にこの製品をお持込みのうえ修理をお申しつけください。
- ご自分で修理はしないでください。たいへん危険です。

アフターサービスについてわからないことは…
ご購入の販売店、またはお客様相談室にお問い合わせください。

お客様サポート

<https://www.do-cooking.com/support/>



お電話でのお問い合わせはお待たせする場合がございます。また、お客様相談室より担当部署におつなぎいたしますので調べまでにお時間を頂戴しております。インターネットをご利用頂いた方が早くご案内できますので、インターネット環境をお持ちのお客様は上記QRコードもしくは、URLからご利用ください。

製品情報に関するお問い合わせ

よくあるご質問

製品・パーツ購入のご案内

※製品によっては、パーツ販売をしておりません。

お客様の声(アンケート)

【電話でのお問い合わせ】

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。品質には万全を期しておりますが、万一不具合や、お気付きの点がございましたら、ご使用にならずに、弊社お客様相談室までご連絡ください。

株式会社ドウシシャ www.doshisha.co.jp

お客様相談室 0120-104-481

【受付時間 9:00~17:00 祝日以外の月~金】

※製品、型番をご確認の上、お電話を頂きますようお願い致します。
※お電話を頂いた際にお話し頂く情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。

【修理品の送付先】

〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

株式会社ドウシシャ 福井カスタマーセンター